

〔出席委員〕 中嶋邦彦、松本典子、名越和範、吉田武章、富田充信、横山千晴、松田裕一、
岡野勝義、小谷次雄、山下千之、長谷川暢宏 (敬称略)

1 開会	
司会	(開会の宣言)
①開会挨拶	
会長	本年度は学校・学級の適正規模、校区のあり方について検討していく。学校の適正規模について考える時、単に学校をくっつけるということではなく、子どもを中心に考えていくことが大切。本日はそれぞれの委員の思いを聞かせて欲しい。
教育長	昨年度協力していただき、倉吉市教育振興基本計画が策定できたことに感謝。現在、地域学校委員会についての規則改正を行い準備を進めている。本年度は教育振興基本計画を実現していくための学校・学級の規模、校区のあり方について検討していく。市民の皆さんに議論していただくためのたたき台を作り、提示していくことが必要ではないかと考えている。よろしく願います。
司会	(資料の確認)
2 事務局説明	
①本年度の審議内容について	
事務局	「明日の倉吉の教育を考える委員会」の提言の中に、学校・学級の適正な規模、校区のあり方について検討を行うことというものがある。さらにそれを受けて倉吉市教育振興基本計画でもこの内容について検討することとなっている。
②倉吉市学校教育の現状	
事務局	「本年度の学校教育の重点について」説明
3 協議	
(1) 学校・学級の適正規模、校区のあり方について	
①切磋琢磨するのに適した集団について	
会長	各委員の思いを述べて欲しい。提言では適正規模について20人から30人程度であることの検証を行うとなっている。何か資料があるか。
教育長	データのものはまだ挙げていない。明日の倉吉の教育を考える委員会の委員の経験値的なものだと考えている。
委員	児童生徒数によって教員配置がどう変わるかということも考える必要あり。 また、体育・文化部活動の編制、楽器等も含め施設への影響等、児童生徒数により十分な活動ができる環境かどうかの検討必要。 部活では試合に出る人数が限られており、これ以上は勧誘しないという生徒。また子どもが出ていればと応援に行くという保護者のこと。演奏会等での会場との距離による参加しやすさ。少人数の学校から中学校へ進学した時の人間関係をつくる力と不登校の状況との関係等考えていけないといけないことがたくさんある。PTA活動の様子等も含め、本当に児童生徒をバックアップできる体制となっているか考えていく必要あり。地域のお年寄りの気持ちもわかるが、保護者数が少ないと役になった人は苦勞する。高齢者が多く、子ども会活動が成り立たない地区もあるが、子ども会で活動できると地域が一つになっていく。子どもに社会体験をさせていくことは大切なことである。
委員	国の学級編制標準の40人に対して、県が小学校1、2年生では30人、中学校1年生では33人としている理由は何か。親のPTA等での負担を考えると少人数では厳しい。団塊の世代が抜けるまでに何とかしておく必要あり。高校生になった時、少人数の小中学校と多人数の小中学校から来た生徒で違いがあるか。

教育長	<p>30人学級は教育界の悲願。国の基準は45人、40人と変遷して来ている。文科省は小学校では30人、中学校では35人にしたいと考えている。小学校1年生は35人となったが、中学校は40人で据え置きとなっている。県は10年ほど前から先取りをして、小学校1、2年生は30人、中学校1年生は33人としている。国の数字の根拠については、全国の学校から出てきた要望をとりまとめたものであり、中央教育審議会でも論議されてきている。この人数については様々な根拠があると思う。国、県等の考え方について、今後資料を出して考えていただけるようにする。</p>
委員	<p>幼稚園、保育園から小学校へ、また小学校から中学校へと環境が変わった時には手厚くして欲しいという要望があり、小学校低学年、中学校1年生では学級の人数を減らしている。</p> <p>小規模校出身者と大規模校出身者の高校での違いについては、わからないというのが正直なところ。小規模校出身者は優しいが変化についていきにくいという面があるかと思うが、100ある特徴の2か3でしかない。</p>
会長	<p>少人数の学校から入ってきた時は、よく知っている者同士を同じ学級にするなどの配慮をすることもある。</p>
委員	<p>学級規模、学校規模を考える時、教育的側面と経済的側面があるが、地域のことを考えることも大切である。現状では、地域の歴史は学校にしか残っていない。学校の統合を考えていくなら、地域の歴史を地区公民館等にきちんと残していくという手当をしていかないといけない。</p> <p>また統合についても考えざるを得ない状況はわかるが、そうした時に、ここは自然体験ができる等学校の個性を持たすことが必要である。そうしたことを説明し、地域の人が納得できる状況づくりが大切である。各地区の教育を考える会にテーマとして出して考えてもらうこともよい。</p>
委員	<p>子どもを育てる上で、地域との交流は大切である。ただ保護者の人数が少なくなってもそれなりにやっていくしかない。その状況で、どんなことをやっていくのかということが大切である。同学年が一人しかいないという不安を話される方もあれば、アパート住まいで学校が遠いからと引っ越して行かれる方等保護者にも様々な意見がある。保護者の熱にも差があるが、地域とのつながりが弱くなっていると感じる。</p>
委員	<p>学年4学級で、1学級に50人いた時代に育った。今は学校全体で1学級分というような学校もある。1学年40人を2学級に分けて、20人で1学級ということも分かるが、これから10人から15人になったらどうするのかということも考えておかなければならない。学校統合を考える時には、学校は地域の文化と密着しているということを考え、それを地域での問題として解決していける場所を作っておく必要がある。地域のことを考えると、学校は小規模でないとうまくいかないのではないかと。</p>
委員	<p>学校、特に小学校は地域とのつながりが深く、地域の人の思いが強い。1学級が20人から30人ぐらいで複数学級あるとよいが、児童数が少ない場合、特に学年に3、4人では子どもが育っていかない。児童の見方、考え方や人間関係が固定化したり、序列化したりすることが課題となる。地域に学校がないと本当にまもられないのか。郡部でも市部でも、これまで統合が行われた学校はたくさんある。統合により地域がだめになったということは聞いたことはないが、そういうところの地域の団結力がどうなったのか検証が必要ではないかと。</p>
委員	<p>かつての上北条小学校に入学し、在学中に統合したために河北小学校で卒業したという体験を持つが、そのことで地域の団結力が下がったとは聞いていない。それよりは全体として人数が少なくなっていることの方が課題であると感じる。何かを知るというような学力向上だけなら、家庭教師でも、コンピュータ相手でもできる。しかし、一定の人数がいないと学び方が身に付いていかない。学びの中</p>

	の社会性が育たない。それを育てていくためには、小学校より中学校、中学校より高校というように、成長するに従って規模が大きくなることは必要である。
委員	学校教育審議会だけではなく、地域の人の意見を聞く機会が必要ではないか。
教育長	地域の人と話す時でも何もない状態で話すのではなく、たたき台となるものが必要だと思う。ここでの審議は教育委員会にも報告するし、場合によっては教育委員も一緒に審議するということがあってもよい。議会でも論議する必要があるが、ある程度まとまったものでないと論議できないのではないかと考えている。ある程度まとめた段階で地区毎で意見を聞き、それを基にまた審議会で審議することになる。最初からかくありきというものを作るということではない。
委員	地域の意見を聞くということは話を進めていくステップの中で必ず必要である。また、教育振興基本計画に返っていくことも必要ではないか。教育目標を達成するためにどうしていくのかということとセットで考え、地域と議論していくことが大切である。
委員	手順としては地域の意見を聞くことは必要だと思う。ただ、望ましい学校のあり方として、1学級が何人であれ複数学級ある学校がよいと考える。今の状況では、自分のことを知的な面も含めてこうだと決め込んでしまっており、殻をやぶれない生徒が多いと感じる。学校の適正規模ということについては学校が主体となり、そこでぎりぎりのところで望ましい環境を整え、それを支えるのが地域ということだと思う。
委員	関金小は南谷小と矢送小が統合してできたが、それぞれの学校のイメージはなくなっている。またそれぞれの地区のイメージもなくなっている。しかし地区公民館が歴史を守っていけば地区のイメージは守れると思う。南谷村、矢送村はそういう組織がなかった。また、関金小の歴史は現在地に移転して15年という学校関係者もいたという話を聞いたことがあるが、地区の人はその前からずっと続けているものとして考えている。歴史を守るためには今の学校を残すのがいいと思うが、児童数を考えるとそうも言っていられない。歴史は地区公民館が守っていき、地区公民館長等が地区の歴史を伝えていくのもよいのではないか。
委員	学校は複数学級で、1クラス20人から30人がよい。少人数の場合、小さいときから保護者も含めて人間関係が出来上がってしまっている。そのまま変わらない状況が続き、ようやく高校で自分を知らない人がいる世界で新たな自分を出せるということがある。大人が何をどうしていかないといけないのか、地域の学校をどうしていくのか、もっと議論していく必要がある。教育を考える会も複数開催するなどして、議論の場にしていけばよい。
会長	この審議会である程度のたたき台を出して、市民の意見を聞いていくことになる。
委員	メリットとデメリットを出し、デメリットがあるとするれば、それを解消していくための方法について話し合っていけばよい。
会長	次回の審議会では、それについての資料を出して話し合いたいと思う。
委員	ここを出したメリット、デメリットをどの地域の教育を考える会でも出して、それについて意見を聞き、その意見を基にして再度審議会で話し合ったらよい。
委員	ここは提言を出す場だと考えている。その提言についての理念をきちんとすることが必要。そのまま決まるということにならない場合もあり得る。
会長	結論は出さないにしても、方向性としてたたき台を出すことが必要ではないか。ある程度まとまってから、教育を考える会に出さないといけないのではないか。
委員	経済的なことも考えておく必要あり。理念だけでは立ちゆかないこともある。
教育長	この度大震災があったが、市内の校舎については耐震補強がI s値（構造耐震指標）0.3までは終わった。0.4から0.6の建物をどうするのかと議会でも言われているが、学校をどうしていかうか考えるとそういうことも絡んでくる。理想だけでは語れない。

委員	教育を考える会では、全部の地区で同じことは考えられない。危機感や熱の入れ方が違う。ある程度具体的なイメージの持てるものを提案していく必要がある。
会長	それぐらいは出していかないと意味がないと思う。
教育長	今の論議で1学級20人から30人の複数学級となると、全校児童数が決まってくる。現実複数学級ある小学校は、市内14校中5校となっている。
会長	これだけ見ると、すぐに結論が出てしまいそうであるが、実際はそうではない。子どもたちのためにはどうかということをいろいろ考えていかないといけない。
教育長	考えなければならないことがたくさんある。通学範囲やバス利用の条件等も検討必要。それについての資料を出していかないといけない。宿題となった1学級が20人から30人がよいという根拠について、また明治6年から始まる学校の流れについても確認していきたい。
委員	校舎の増改築の必要性ということも影響してくると思われる。また小学校での教科担任制についても検討していく必要があるのではないかと。
会長	校区の選択制についても資料があってもよいのではないかと。
教育長	部分的には考えていくことができるかもしれない。次回は資料を出したい。
委員	クラブ活動について、小学校のスポーツ少年団も含め実態が知りたい。
委員	中学校では部活の種目数が減少している。指導者の確保ができない状況にある。
委員	保護者の立場で考えると、地域の学校が統合してしまうのではないかと心配な面がある。ただ、学校が高い所にあるので避難所としてはよいのではないかと思う。社小の卒業生は3つの中学校に分かれるが、部活数の関係もあるのか久米中にはなかなか来てもらえない。教育を考える会は、出る人が決まっているというイメージがある。会場の広さもあり、保護者が出る幕はないという認識。参観日に合わせて開催するなど保護者が参加しやすい状況をつくることも必要か。今は報告の会という感じであり、意見を言えるような会にしていくことが必要だ。
②今後の審議の進め方について	
会長	次回からはさらに踏み込んだ審議をしていきたい。
事務局	本年度は4回を計画している。2ヶ月に1回程度の審議会を開催し、場合によってその間に市民の意見を聞くなどのことも検討していくことではどうか。
会長	基本計画とつなげていくことも考えていきたい。
教育長	事務局としてどのようなことを論議していただければよいか論点を整理し、次回提案していきたい。
(2) 高城小学校河来見分校について	
事務局	現状では在校生がいない。今後どうするのか検討の必要あり。教育委員会会議でも検討している。今後さらに地域への説明をていねいにしていく。
会長	今日は方向性の確認ということ。強引にされることはないようにして欲しい。
委員	広瀬分校の状況はどうか。
教育長	広瀬分校には現在児童が在籍している。
委員	倉吉市の過去の統廃合の状況が知りたい。次回の会には資料を出して欲しい。
4 その他	
事務局	「倉吉市教育行政の点検及び評価について」説明 教育を考える会の開催が半数となっておりCという評価となっているが、今年度は地域学校委員会の開催を考えており、改善が見込まれている。
委員	児童生徒の学力等の状況がどうなったかではなく、何をしたかが評価基準となっているのではないかと。どういう姿になったかが評価されるとよいのではないかと。
教育長	倉吉市の児童生徒の学力は全国平均を上回っているという状況がある。ただ、すべてが数値で評価できないという教育の特殊性がある。来年度に向けて検討していきたい。
事務局	連絡：追加の意見の送付について、今後の日程について
5 閉会	

